



# 連合徳島

vol. 294

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1  
徳島県労働福祉会館内  
tel. 088 (655) 4105  
fax. 088 (655) 4113  
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp  
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行：日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 島 和 久



### 当面の日程

- 7月18日(水) 「クラシソコアゲ応援団！ RENGOキャンペーン」(JR徳島駅前)
- 7月21日(土) 地域元気フォーラムinとくしまⅣ (文化の森・徳島県立21世紀館)
- 7月28日(土)～29日(日) 連合の森(中尾山)
- 8月 8日(水)～ 9日(木) 平和行動in長崎

### 連合徳島地方委員会

## すべての労働者の立場に立った働き方改革の実現に向け

### 後期主要課題の方針を承認

連合徳島は6月26日、徳島市の阿波観光ホテルで2018年度連合徳島地方委員会を開き、執行部、地方委員など30構成組織72人が参加。2018年春季生活闘争の中間まとめを行うとともに、後期主要課題の取り組み方針などを決定した。

連合徳島は2018年6月26日、阿波観光ホテルで2018年度地方委員会を開催し、役員、地方委員63人(内女性15人)をはじめ72人が参加した。大谷副会長の開会あいさつの後、自治労・鈴木地方委員を議長に選出した。

連合徳島森本会長は、「2018春闘は、全国的には昨年を上回る成果が得られている。県内においても昨年並みの水準を確保できている。この流れは、最低賃金の審議にも好影響を与えるものと確信している。働き方改革については、企画業務型裁量労働制の対象業務拡大については、政府は、今国会における法案提出を断念したが、高



森本会長と団結ガバロウ

度プロフェッショナル制度については、衆議院で強行採決され、参議院に移り、審議がヤマ場を向かえている。野党には最後まで奮闘を期待したい。大規模災害に備える取り組みとして、引き続きボランティア・サポーターチーム養成講座による人材育成と市民との協働による防災協力体制の確立に向け取り組んでいく。地域を元気にする取り組みとしての、来月開催予定の地域元気フォーラムでは、働き方改革が職場環境の改善と人材の確保・育成・定着のためにどのような中身が必要で、どのように運用していかなければならないかを中心に議論が深まればと考えている。政治課題として、現在の連合徳島推薦議員ネットワークを強化・拡大するため、徳島県版政策・制度推進フォーラムの設置に向け、議論を始め、自公政権に対抗できる新たな政治勢力再結集の起爆剤となり、働く者、生活者の立場に立った政権樹立に向けた闘いに挑んでいける状況をつくり出す必要がある。労働安全衛生については、NPO法

人徳島労働安全衛生センターと連携し、長時間労働撲滅による労働安全衛生の推進に努力していく」とあいさつした。

連合本部・山本副事務局長は、「すべての労働者の立場に立った働き方の実現に向けては、長時間労働の是正や職場における均等待遇の実現など、法改正に先行した職場の基盤づくりが前進している。また、育児や介護と仕事の両立に向けた環境整備など職場における男女平等の実現に向けた取り組みについても昨年を上回る前進が見られている。今後、構成組織や地方連合会との連携に努め、社会全体の取り組みにつなげていく」とあいさつ。続いて、黒下徳島県商工労働観光部長、労働福祉事業団を代表して、藤岡全労済徳島推進本部長、庄野国民民主党代表、連合徳島推薦議員ネットワーク各議員から、連帯と激励のあいさつを受けた。

報告事項では、島事務局長から一般経過報告、小谷財政部長から2018年度上半期一般会計報告、田村会計監査から会計監査報告、鎌谷役員推薦委員会報告を行い全体の拍手で承認された。議事では、



30構成組織72人が参加



連合本部山本副事務局長が来賓あいさつ

島事務局長から第1号議案・2018年春季生活闘争の中間まとめ(案)、第2号議案・2018年度後期主要課題の取り組み方針(案)、矢嶋副会長から2018年度連合徳島役員補充(案)について提案し、質疑討論の後、全体の拍手で承認された。

質疑では、自治労・中川地方委員から、「骨太方針2018では引き続き地方自治体の財政引き締めがもくろまれている。地方財政を確立させることが、市民サービスの拡充につながると確信しているし、全国の知事会・市町村町会と連携し国等に強く求めていくことが必要だ。自治労として自治体財政を圧迫し、地方自治をないがしるにする地方交付税攻撃に抗し、真の地方自治確立に向けた闘いを強めていきたいと考えているので、連合徳島

の支援を要請する。また、三好市議会議員選挙については、4人全員の当選を勝ち取ることができた。連合徳島、加盟各組織からのご支援、ご

### 女性委員会 労働局要請

## 男女が均等な機会と待遇で働き続ける環境づくりを要請

2018年6月22日、徳島地方合同庁舎6階会議室において、男女が均等な機会と待遇で、仕事と生活の役割と責任を分かち合いながら働き続けることのできる男女平等参画社会をめざし、徳島労働局雇用環境・均等室長との意見交換会を実施し、女性委員会から4名が参加した。冒頭、藤田委員長が要請書を手渡し、室長から回答を得た。その後①仕事と育児・介護が両立

2018年6月18日(土)19日、連合徳島事務所他で連合徳島と連合東京の意見交換会を開催した。連合東京からは、小林昭浩副事務局長(中南ブロック地協事務局長)、吉村美樹組織局部長、平野亮三多摩ブロック地協事務局長、伊藤好磨東部ブロック地協事務局長が来県し、連合徳島は、森本会長、島事務局長、山本副事務局長、川西アドバイザーが対応した。

連合東京は、結成30周年を控えた中で、今後の組織

## 連合東京と意見交換し認識共有

運営や連合本部が策定する「2035ビジョン」に向けて、組織財政検討委員会等で検討することとしており、数県の地方連合との意見交換を開催している。

連合東京からは、「組織運営の状況」「地域へ根ざした活動の具体事例」「丹東市総工会との友好交流の経緯」など、連合徳島の特徴的な活動の詳細について質問を受けた。連合徳島からは、「連合東京ボランティアサポーターチーム」との交流に対する御礼と引き続き指導いた



とくしま新未来創造オフィス(神山オフィス)



要請書を提出する藤田委員長(左)

方委員会アピール(案)の提案を行い、採択され、川口副会長の閉会あいさつの後、森本会長の団結ガバロウで地方委員会を閉会した。

全員が、男女平等や様々なジェンダーに関する課題に対応できるように、研修を実施することや、労働局雇用環境・均等室が労働者の相談機関であることの周知を要請し意見交換会を終了した。

大きくことを依頼し、連合東京の日常活動全般についても学ぶ機会となり、認識共有を図ることができた。

なお、連合東京一行は、神山町のサテライトオフィス運営状況を視察し、県庁の神山オフィスではテレビ会議室システムを体験した。



6月男女平等月間

# 「全国一斉女性のための相談ダイヤル」開設周知

クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン「女性のための相談ダイヤル」開設の周知徳島駅前行動を2018年6月5日にJR徳島駅前で行き、各構成組織から31名が参加して街頭宣伝・ビラ配布活動を実施した。

冒頭、連合徳島森本会長から「すべての労働者の立場に立った働き方の実現の重要性」と「働く女性のための職場環境の改善」を求め訴えた。

連合徳島女性委員会藤田委員長は、働く女性を取り巻く環境の変化にともない、女性活躍推進法や改正育児・介護休業法の施行等の法整備が進んでいても職場内におけるセクハラ・マタハラ・パワハラ等に関する相談が増加傾向である現状と、相談ダイヤルの事例を紹介したあとに、「職場でトラブルに直面した時、一人で解決するのは困難である。そのトラブルは自分だけでなく、同じ職場で働く仲間の問題でもある」と訴え、6月15日と16日の両日に開設する「女性のための全国一斉集中労働相談ホットライン」を帰宅途中の市民に宣伝した。

ほかに、民間大手部会川口議長、労働福祉団体(公社)



県民に訴える弁士ら



県民にビラとティッシュを配布

徳島県労働者福祉協議会川越会長、国民民主党徳島県連合庄野代表から、「男女が共に働きやすい職場環境のあり方」労働協約の取り組み支援事業「国民民主党の政策」などを述べた。

相談ダイヤルには、期間中健康保険未加入・報奨金未払い・雇用形態・業務内容等に関する相談が4件寄せられた。

## 第18期 第2回ボランティア・サポートチーム養成講座

### 障がい者の介助方法を学習

2018年6月30日、徳島スローワークセンター・あゆみ園にて、第18期ボランティア・サポートチーム(VST)養成講座の第2回講座を開催し、構成組織等から29名が参加した。

冒頭、徳島市身体障害者連合会・林理事長より、『世論調査にみる障がい者問題』と題して、「人権課題について関心があると答えた中で一番多かったのは障がい者であった。障がい者に関し、どのような人権問題が生じているかでは就職・職場で

の不利な扱いを受けている。障がいをもっている方の生活を豊かにするには、心・政策的・文化的・環境的ケアによるバリアフリーを忘れないで欲しい。障がい者と普通に接していただくことが大切である」とあいさつ。

あゆみ園・浅野所長より、支援事業の紹介と施設内の説明を受けた後、徳島市身体障害者連合会運営協議会委員の上山さんから車椅子の使い方を説明、なのはなヘルパーステーションで勤められていた下田さんから



徳島市身体障害者連合会林理事長があいさつ



車椅子体験

白杖体験の注意事項等の説明を受けた。雨天のため、あゆみ園1階広場での車椅子体験・視覚障がい者への介助(サポート)訓練を行った。

グループミーティング。各班の報告では、「視覚障がいの方を介助する際にコミュニケーションと信頼関係など意外に知らなかった誘導の仕方について大変勉強になり、貴重な経験ができた」「障がい者の方が困っていたら、ためらわず声掛けをしていく」「障がい者の方々の差別について考えたい」等の内容が発表された。

## 平和行動 in 沖繩

### 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現を

2018年6月23日から24日にかけて「2018平和行動 in 沖繩」が実施され、連合徳島からは、3人が参加した。

23日、15時よりの平和オキナワ集会は、浦添市民体育館で開催され全国の構成組織・地方連合会から1200人が結集し、沖繩の課題解決に向けて一丸となつて取り組んでいくことを確認した。

平和集会第1部は、フリージャーナリスト屋良朝博さんから、沖繩基地問題についてと題し、「沖繩の米軍基地の約7割を占有する米海兵隊は、朝鮮半島情勢を警戒するため、カリフォルニアから岐阜、山梨、静岡など



アメリカ空軍嘉手納基地



住宅密集地にある在日米軍普天間基地

兵隊は、連合会長は、「沖繩の抱えている問題は、日本人全体の問題としてとらえなければならぬ。平和行動 in 沖繩を通じ、五感で感じた沖繩の歴史と実情をそれぞれ地域や職場に持ち帰り、運動としてほしい」とあいさつした。

第2部の平和式典で神津連合会長は、「沖繩の抱えている問題は、日本人全体の問題としてとらえなければならぬ。平和行動 in 沖繩を通じ、五感で感じた沖繩の歴史と実情をそれぞれ地域や職場に持ち帰り、運動としてほしい」とあいさつした。

24日は、米軍基地コース、南部戦跡コースに別れ、ピースフィールドワークが実施された。嘉数高台から一望した普天間基地は、宜野湾市の中心部に位置し、航空機騒音の発生、墜落の危険性を抱える基地問題の象徴のような存在であるが、過去にヘリコプターの墜落事故が発生した沖繩国際大学等の文教地区を含む、住宅密集地であり、決して他人事では済まされない問題と実感した。

## NPO法人 徳島労働安全衛生センター

第17回総会

2018年6月26日、徳島市の阿波観光ホテルにお

いて、NPO法人徳島労働安全センター第17回総会が開かれ、会員団体から29名が参加した。

総会は大谷副理事長の開会あいさつの後、亀田理事長を議長に選出した。冒頭、新居理事長から「当センターは、県内の労働者が安全で健康に働ける職場環境づくりをめざして、活動の大きな柱である第一種衛生管理者養成講座の開催、優良事業所見学会、各種セミナー、安全衛生に関する相談事業を行ってきた。今年第13次労働災害防止推進計画のスタート年であり、現状と課題を把握し、目標をしっかりと後押しするとともに、いじめやパワハラなどのメンタルヘルス対策、アスペクトなどの有害物質等への対策に全力に取り組んでいく」とあいさつ。続いて、徳島労働局労働基準部健康安全課三木課長、徳島県商工労働観光部労働雇用戦略課阿部課長、徳島産業保健総合支援センター吉原副所長、(公社)徳島県労働者福祉協議会川越会長、連合徳島森本会長より来賓あいさつを受けた。片岡専務理事が「2017年度活動経過報告、収支決算書、会計監



会員団体から29人が参加